

2017年12月

琳派や若冲など日本画の世界と、
鉄腕アトム、初音ミク、リラックマなど現代の人気キャラクターが融合！
京都の絵師による肉筆画 35 点を一堂に展示。

ぼくらが日本を継いでいく -琳派・若冲・アニメ-

■会 期:2018年1月10日(水)→16日(火)

■会 場:新宿高島屋 11階 特設会場

入場時間:午前10時～午後7時30分(午後8時閉場)

※但し1月12日(金)・13日(土)は午後8時まで(午後8時30分閉場)

※最終日は午後5時30分まで(午後6時閉場)

主催:RINne Associe/後援:BS日テレ/特別協力:細見美術館 **【入場無料】**

新宿高島屋では、展覧会「ぼくらが日本を継いでいく-琳派・若冲・アニメ」を開催し、琳派や若冲など日本画の世界と現代のキャラクターが融合した作品を展覧いたします。

これらの日本画とキャラクターが融合した作品の制作は、2015年に始まりました。京都で各種染織製品の製作、販売を手がける「豊和堂」(とよわどう)のアートディレクター・山田晋也(やまだ・しんや)さんが、「マンガやアニメも、戯画や絵巻など日本古来の絵画の流れを受けているといえる。では、そのマンガやアニメを琳派の手法で描くとどうなるだろうか?」と考え、琳派へのオマージュ作品を企画したのが始まりでした。

細見美術館館長・細見良行(ほそみ・よしゆき)さん監修のもと、この時制作された作品は、2015年秋に京都国際マンガミュージアムで開催された「琳派オマージュ展」などで展示され、大好評を博します。

本展では、2015年に発表された作品から、若冲の作品に着想を得て本年制作された初公開の新作まで計35点を一堂に展覧いたします。作品はすべて、豊和堂の絵師による肉筆画です。時代を超えて融合し誕生した新たな世界観と、その世界に息づくキャラクターたちの表情をお楽しみください。

※会場限定オリジナル商品の販売がございます。

はつね はつね しやくちゆうとり
〈初音ミク×若冲鶏〉



Illustration by iXima © Crypton Future Media, INC. www.piapro.net **piapro** ©細見美術館

伊藤若冲「鶏図」の鶏の尾の筆遣いと、初音ミクの髪の毛の筆遣いに近いものが感じられた為、組み合わせて描きました。

■展覧作品について

【作品点数】 計 35 点予定

すべて、豊和堂の絵師による肉筆画。約半数は、細見美術館の所蔵品(俵屋宗達、鈴木其一、神坂雪佳、酒井抱一、酒井鶯蒲、伊藤若冲など)に着想を得て細見美術館館長・細見良行さん監修のもと、制作されました。

※特定の作品をモチーフとしていないものもあります。

【作品に登場するキャラクター】

手塚プロダクション:「鉄腕アトム」のアトム、「火の鳥」の火の鳥、「ブラック・ジャック」のブラック・ジャック
リラックマ、初音ミク など

■展示作品の一例



〈火の鳥×旭日に波濤〉

©手塚プロダクション

©細見美術館

酒井鶯蒲「旭日に波濤鶴鶴図」と火の鳥の作品との親和性が感じられて、組み合わせました。



〈ブラック・ジャック×富士鳥〉

©手塚プロダクション

©細見美術館

三羽鳥が描かれている鈴木其一「富士鳥図」とブラック・ジャックを組み合わせました。



〈リボンの騎士×東下り〉

©手塚プロダクション

©細見美術館

特定の作品をモチーフにはしていませんが、鈴木守一「業平東下り図」を参考にしました。白馬に乗ったサファイアと、松や富士の景色が合うので選びました。



〈リラックマ×軒端の梅〉

© 2017 San-X Co., Ltd. All Rights Reserved.

© 芸艸堂

かみさかせつかのきばうめず
神坂雪佳「軒端の梅図」とリラックマを組み合わせました。

「軒端の梅」というと、平安時代の女流歌人・和泉式部の遺愛の白梅を指します。お団子と風流を愉しむリラックマとして描きました。

■細見美術館について

公益財団法人細見美術財団が運営する美術館。

実業家・日本美術コレクター、細見古香庵(1901-79)に始まる細見家三代の蒐集品を基礎として、1998年に開館。コレクションは、神道・仏教美術から茶の湯の美術、琳派・伊藤若冲といった江戸絵画など、日本美術のほとんどすべての分野・時代を網羅している。美術館では、これらを中心に多彩な企画展を開催、古典に息づく美の魂を未来に活かしたいという志のもと、伝統文化の継承保存と普及振興に努めている。

所在地:京都市左京区岡崎最勝寺町 6-3

■豊和堂株式会社について

きものや帯など各種染織製品の制作・販売を行う。約 400 年前、豊臣政権の五奉行を務めた前田玄以を先祖に、代々伝わる文献を基に、織りや染めなどの染織技術に着眼し、復元と創作も行っている。近年では、2013年、細見美術館へ依屋宗達「墨梅図」復元、収蔵、2014年、細見美術館へ伊東若冲「糸瓜群虫図」復元、収蔵。

所在地:京都市上京区室町通丸太町上ル大門町 255